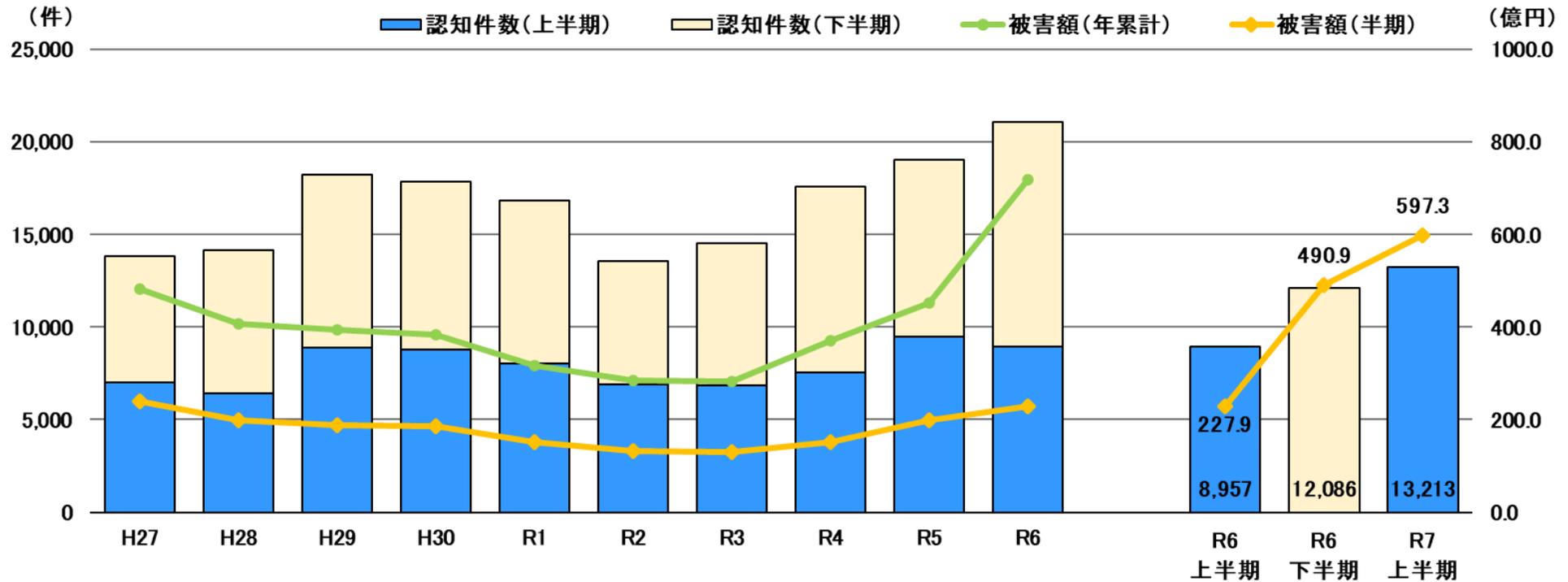

令和7年上半期における 特殊詐欺、SNS型投資・ロマンス詐欺の 認知・検挙状況等について (暫定値)

※ 各値の増減(±)は前年同期比



特殊詐欺の被害状況(令和7年上半期)



◆認知件数

13,213件

(+4,256件、+47.5%)

◆被害額

597.3億円

(+369.4億円、+162.1%)

◆増加の主な要因

警察官等をかたり捜査(優先調査)名目で現金等をだまし取る手口(以下「ニセ警察詐欺」という。)による被害が顕著

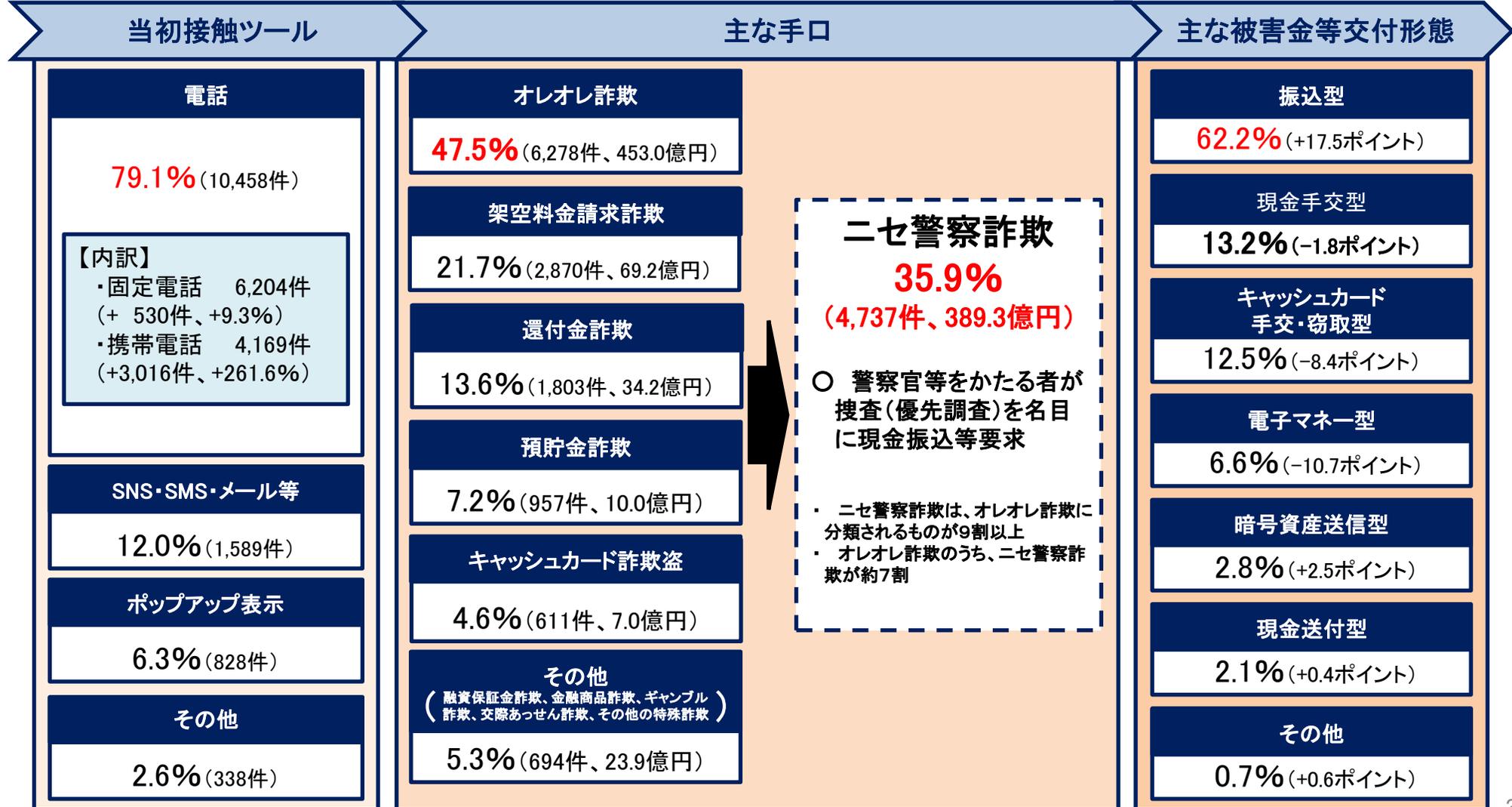
- 認知件数は**4,737件(特殊詐欺全体の35.9%)**、被害額は**389.3億円(同65.2%)**

※ ニセ警察詐欺は令和7年1月から統計を開始。令和6年中に同手口が多数を占めたオレオレ詐欺(その他の名目)の令和6年上半期の認知件数は1,061件、被害額は72.5億円

- 年代別では**30代**が973件と最多、次いで**20代**が884件と、**若い世代に被害が拡大**
- 主な被害金等交付形態別では**インターネットバンキング(IB)**利用の被害額が176.2億円と、ニセ警察詐欺全体の45.3%を占め、**被害額増加の主な要因**

特殊詐欺の被害の流れ

- 当初接触ツールの約8割が電話
- 約5割がオレオレ詐欺、その約7割はニセ警察詐欺
- 主な被害金等交付形態の約6割が振込型

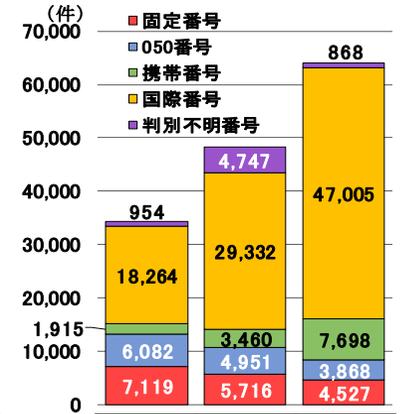
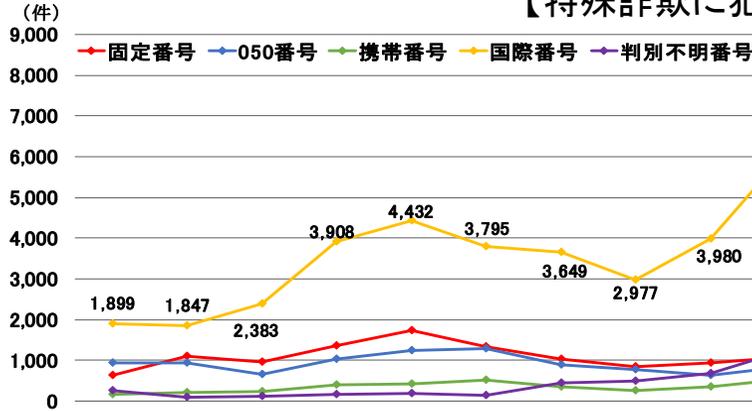


特殊詐欺に犯行利用された番号種別の推移

特殊詐欺に犯行利用された番号

○ 特殊詐欺に犯行利用された番号は、63,966件(+29,632件、+86.3%)。そのうち、国際番号が47,005件(+28,741件、+157.4%)で、全体の73.5%(+20.3ポイント)を占める

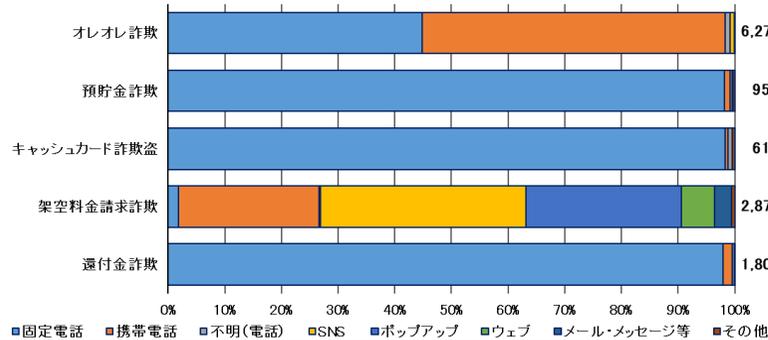
【特殊詐欺に犯行利用された番号種別の推移】



	R6.01	R6.02	R6.03	R6.04	R6.05	R6.06	R6.07	R6.08	R6.09	R6.10	R6.11	R6.12	R7.01	R7.02	R7.03	R7.04	R7.05	R7.06
固定番号	625	1,090	970	1,358	1,734	1,342	1,035	837	937	1,079	1,086	742	419	587	971	977	817	756
050番号	932	948	659	1,019	1,245	1,279	900	768	635	843	1,025	780	596	728	673	643	637	591
携帯番号	159	199	233	402	417	505	342	263	346	536	976	997	844	862	2,064	1,320	1,275	1,333
国際番号	1,899	1,847	2,383	3,908	4,432	3,795	3,649	2,977	3,980	6,081	6,343	6,302	6,076	7,998	7,356	8,839	8,185	8,551
判別不明番号	246	103	114	170	185	136	437	486	675	1,238	439	1,472	150	170	185	155	74	134
計	3,861	4,187	4,359	6,857	8,013	7,057	6,363	5,331	6,573	9,777	9,869	10,293	8,085	10,345	11,249	11,934	10,988	11,365

※ 「特殊詐欺に犯行利用された電話番号数」として、都道府県から警察庁に報告された電話番号数を集計(未遂・相談事案を含む)
 ※ 都道府県から報告された電話番号が重複する場合、1件として計上。ただし、月をまたいで同一番号の報告があった場合は、各月1件として計上
 ※ 未使用の国番号が用いられた場合、令和6年12月以前は、判別不明番号として計上していたが、令和7年1月以降は、国際番号として計上
 ※ 判別不明番号は、桁数等から番号種別を判別できないものを計上

手口別の当初接触ツール



- 固定電話が当初接触ツールとなる件数が多い
- オレオレ詐欺では携帯電話への架電が53.4%
- 架空料金請求詐欺では当初接触ツールが多様

▶「みんなでとめよう!!国際電話詐欺 #みんなとめ」チラシ

- 国際電話の利用休止が特殊詐欺の被害防止に有効であることを社会に呼び掛け社会全体の機運を醸成する活動を「みんなでとめよう!!国際電話詐欺 #みんなとめ」と呼称し、全国警察を挙げで実施している

ニセ警察詐欺の被害の流れ

- 当初接触ツールはほとんどが電話、そのうち携帯電話への架電が約7割
- 欺罔の段階では、連絡ツールがLINEをはじめSNS等に移行
- 主な被害金等交付形態の8割以上が振込型

※()内は認知件数

当初接触ツール

電話

99.1% (4,693件)

【内訳】

・固定電話	30.5% (1,430件)
・携帯電話	68.3% (3,205件)

その他

0.9% (44件)

主な欺罔方法

「2時間後からこの電話は使えなくなる」などの
自動音声ガイダンス

→ 指定された番号を押すと、通信事業者等を
名乗る者につながる

→ 「あなた名義の携帯電話が犯罪に使われて
いる」などと言われ、**警察官等をかたる者**に
電話が代わる

→ やりとりが**SNS等に移り**、アプリを使用して、
警察官等をかたる者とビデオ通話したり、相手
方から**警察手帳、逮捕状の画像等が送信**される

→ 「あなたのお金が犯罪に関与しているか判断
する」などと言って、現に使っている口座の全て
の金額を振り込むよう要求

主な被害金等交付形態

振込型

82.7% (3,918件)

【内訳】

・IB	1,973件
・IB以外	1,945件

現金手交型

7.7% (364件)

暗号資産送信型

5.6% (267件)

キャッシュカード 手交・窃取型

2.6% (122件)

その他

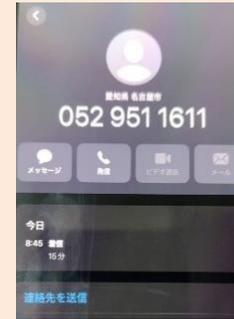
1.4% (66件)

ニセ警察詐欺について①

認知件数等からみた特徴

- 被害は幅広い年代にわたるが、全体のうち**30代が973件(20.5%)と最多、次いで20代が884件(18.7%)**
- **30代・20代は、携帯電話**への架電がほとんど
- **60代以上では固定電話**への架電も多くみられる
- 「2時間後からこの電話は使えなくなる」「使用する場合は1番を押してください」などの自動音声ガイダンスを利用した被害も発生。犯人側が**自動発信機能等を利用して大量に架電している実態もうかがわれる**
- **犯行に利用される電話番号**の多くは「+1」等から始まる**国際番号**
- 実在する警察本部や警察署等の電話番号を偽装して表示させる手口を確認。「+」から始まる国際番号表示による偽装が多かったが、中には「+」表示のない正規の電話番号を偽装した手口も散見

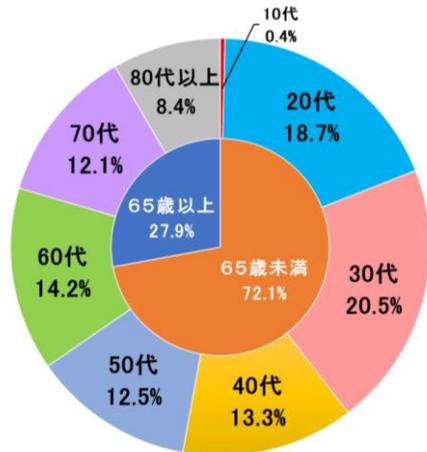
警察本部や警察署等の代表電話番号を偽装表示する手口



愛知県警察本部の代表電話番号の着信履歴番号画像

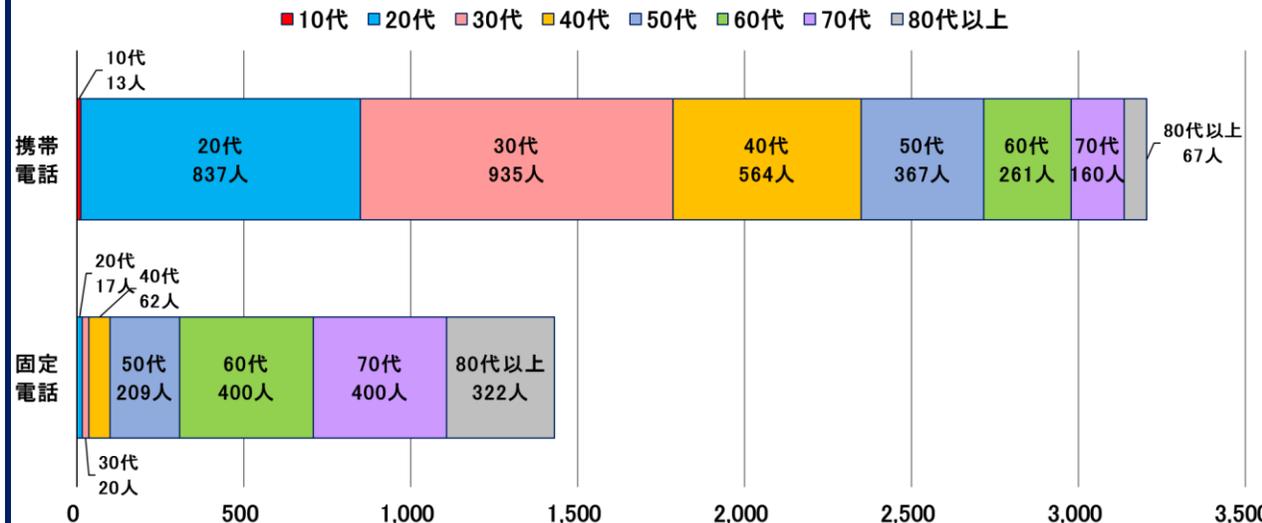
- ニセ警察詐欺において、実在する警察署等の電話番号を偽装して表示させる手口を確認
- 「+」から始まる国際番号についても、末尾が「0110」の番号を使用するものも多く見られ、警察署等からの架電を装う事例が目立つ

被害者の年齢層別の認知件数



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
件数	17	884	973	630	591	673	572	368	28

電話種別ごとの年齢層別の被害者数

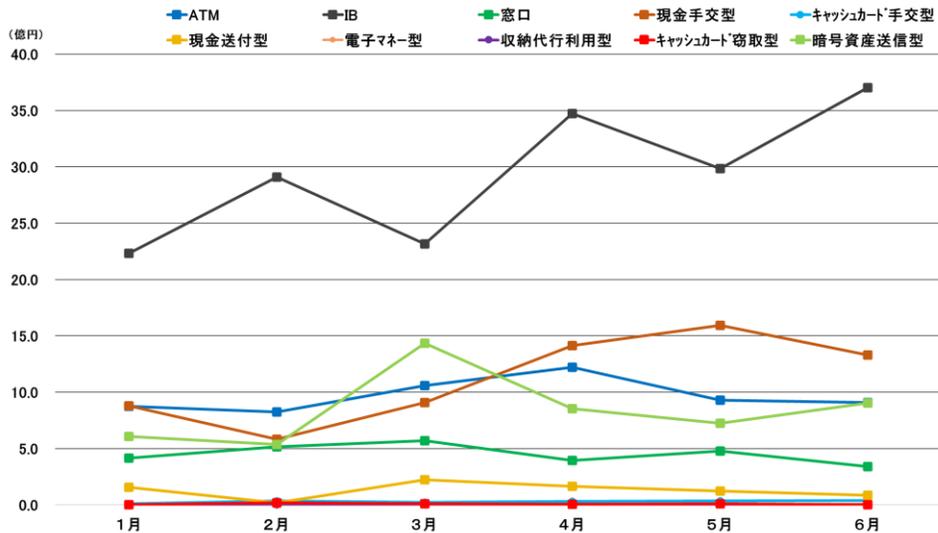


ニセ警察詐欺について②

被害額等からみた特徴

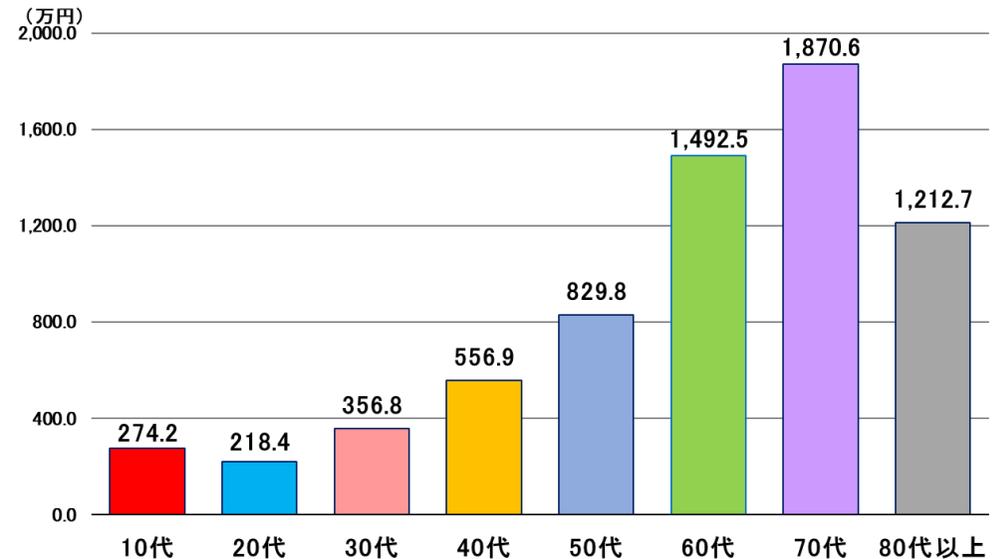
- 既遂1件当たりの被害額 828.7万円（他の特殊詐欺(254.9万円)の**3.3倍**）
- 年代別の既遂1件当たりの被害額 **60代以上が1,559.2万円**と高額
- 主な被害金等交付形態別の被害額
 - ✓ 振込型 261.5億円(ニセ警察詐欺全体の**67.2%**)
 - ✓ **暗号資産送信型** 既遂1件当たりの被害額が**1,897.1万円**と高額
(認知件数は267件と多くはないが、本年3月から**4か月連続で増加**)

主な被害金等交付形態別の推移



※ 振込型(ATM、IB、窓口)

年代別既遂1件当たりの平均被害額



ニセ警察詐欺について③

手口の小道具



LINEメッセージ・ビデオ通話



偽の警察官
(偽の警察手帳を示している)



逮捕状のような書類など



偽サイト・偽SNSアカウント

特異な手口

犯行グループが被害者から金銭等を詐取する手口として、次のような事例も確認

スマートフォンを送付するなどする手口



金地金の購入を指示する手口



ニセ警察詐欺について④

被害者が詐欺の受け子等の犯罪の道具として使われる手口

- **被害者**が警察官等を名乗る者からの指示により、別の特殊詐欺事件の受け子等として**犯行に加担させられる手口**を確認
 - 検挙人員のうち、本手口により受け子等として犯行に加担させられた者は5人
- ※ ニセ警察詐欺以外でも20人確認

犯行に加担させる文言

- 資金調査に協力してほしい。個人宅に行き、**お金や通帳を受け取るだけ**の簡単な調査である
- 信用があるか確認する。**口座をなるべく作ってもらい、そこにお金を振り込むので、指定された口座に振り込んでほしい**
- **犯罪をしていないなら、それを証明するために捜査に協力するように**



加担させられた行為

- 被害者方を訪れ、免許証を提示して警察官を名乗り、キャッシュカードを受け取った(受け子)
 - 「言われたとおりやらないと振り込んだお金は返らない。」等と言われ、自身の口座に振り込まれた詐欺の被害金を引き出し、被疑者に指定された口座に振り込んだ(出し子)
- ※ 受け子、出し子の両方をさせられた事例も確認



犯行中の認識

- (本物の)警察の秘匿調査に協力していると信じていた
- 指示に従わなければ逮捕されてしまうと思っていた
- 自分が振り込んだお金が返金されるために送金した

ニセ警察詐欺について⑤

性的な被害を伴う手口

- 警察官を名乗り電話を架け、**SNS等のビデオ通話**に誘導し、偽の「警察手帳」や「逮捕状」を示すなどして、「犯罪に加担していないことを証明するため」などとして金銭を要求するとともに、**わいせつな行為を強要する性的な被害**を伴う手口を確認
- 都道府県警察から警察庁に報告があったものは**48件**(※未遂・相談事案を含む。)

※ 関連広報 令和7年5月23日(金)、令和7年6月19日(木)「性的な被害を伴う警察官をかたる特殊詐欺の発生について」

犯人の手口

○身体確認名目

「あなたには犯人の疑いがある。犯人の身体には刺青が入っているので確認させてほしい。」などと被害者に申し向けてビデオ通話中に服を脱がせる。

○身体検査名目

「身体検査をするので服を脱いでください。」「下着に物を隠していないか確認する。」などと被害者に申し向け、ビデオ通話中に服を脱がせる。

○行動確認名目

「あなたを逮捕しないためにはビデオ通話で監視する必要がある。」などと被害者に申し向けて、ビデオ通話でトイレや入浴中も映像送信を継続させ行動を監視する。

事例

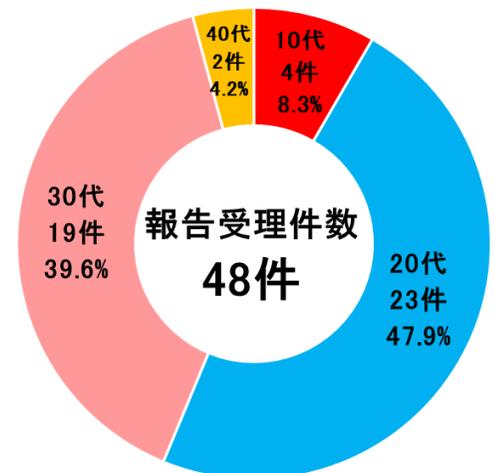
被害者は、警察官を名乗る者から、「あなたには逮捕状が出ている。」「一人になれる場所に移動してくれ。」と言われ、ホテルに移動した。その後、検察官を名乗る者から電話があり、「逮捕されないためには行動を監視する必要があります。」などと告げられ、SNSのビデオ通話機能を使用してトイレや入浴中も映像送信を継続させられる性的な被害に遭った。加えて、警察官を名乗る者から保釈金を振り込むように指示され、**インターネットバンキング**で指定された口座に現金を振り込んだ。



被害者が気付いたきっかけ

- インターネットで自身の状況を検索したところ、**同じ手口の書き込み**があった
- 下半身を映すように言われ、**不審に思い**電話を切った
- **犯人がなれなれしい口調**だったり、SNSのビデオ通話を継続するよう指示されたことを不審に思い知人に相談した

被害者は全て女性
20代、30代が大半を占める



副業詐欺について

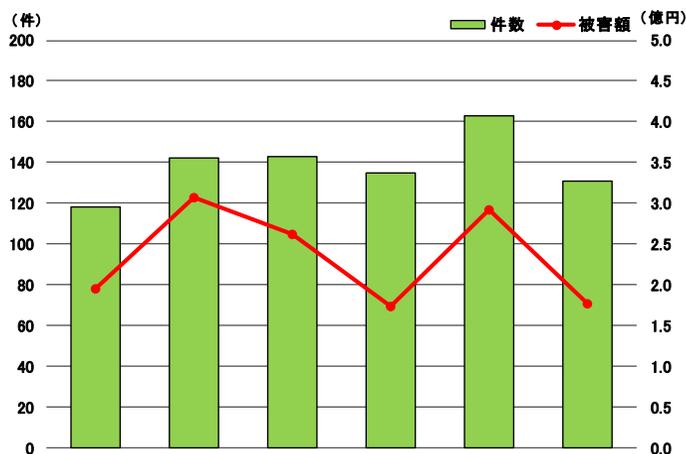
手口の概要

- 認知件数 832件(特殊詐欺全体の6.3%) 被害額 14.1億円(同2.4%)
- SNS上で、「**短時間**」「**簡単**」等の甘言で副業を勧める**広告等を入口**とした詐欺が**令和7年1月以降毎月100件以上発生**
- 現金等をだまし取る名目として確認されている代表的なものは以下のとおり
 - ・「動画をスクリーンショットして送るだけ」等の**簡単な作業で報酬が支払われる**とうたい、スクリーンショットを画像送信すると「あなたが操作ミスをしたせいで、他の人にも迷惑がかかる」などと**損失の補償**を名目とするもの
 - ・「SNSでゲームのPRをするだけで報酬が得られる」などと**コンサルタント料**を名目とするもの

特徴

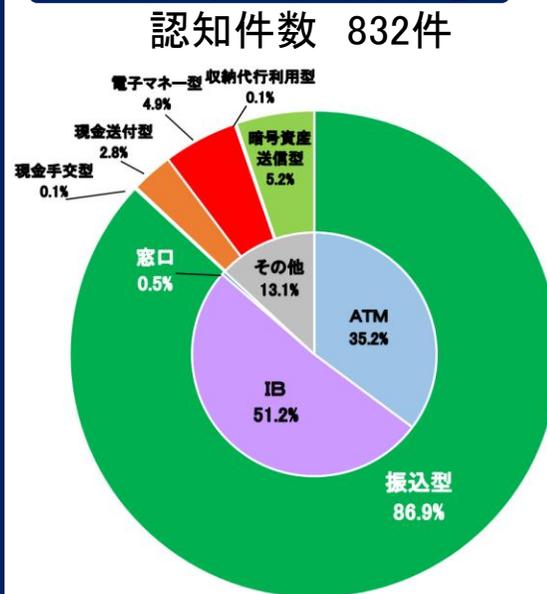
- 年代別 **60歳未満が91.2%**。性別 **女性が65.5%**(約6割が30代以下)
- 当初接触ツール **SNSが68.5%**と**最多**
- 男女別SNSの内訳 男性は20代から60代まで「TikTok」、女性は20代から50代まで「Instagram」がそれぞれ最多
- 主な被害金等交付形態 振込型が86.9% 既遂1件当たりの被害額 157.3万円 (うち**IBが58.9%**、**既遂1件当たりの被害額は169.7万円**)
暗号資産送信型が5.2%、既遂1件当たりの被害額 **401.5万円**

副業名目の被害状況



	全体	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6
件数	832	118	142	143	135	163	131
被害額	14.1	2.0	3.1	2.6	1.7	2.9	1.8

主な被害金等交付形態



事例

被害者が、SNSで副業情報などを閲覧していた際、副業を紹介するアカウントとアプリでやり取りするようになり、SNS上でゲームのPR動画を投稿する副業を紹介された。相手方の話を信じ、専用サイトに登録し、投稿方法のコンサルティング料の名目で請求された約38万円を相手方が指定する口座に送金した。その後も、「再生回数を増やすツール」や「動画の単価が上がるツール」等の購入名目で合計約1,346万円をだまし取られた。

架空料金請求詐欺の特徴

- 認知件数 2,870件(+296件、+11.5%) 特殊詐欺全体の21.7%(-7.0ポイント)
- 被害額 69.2億円(+7.4億円、+12.0%) 特殊詐欺全体の11.6%(-15.5ポイント)

有料サイト利用料金等名目

- ✓ 認知件数 689件(+85件、+14.1%) 架空料金請求詐欺全体の24.0%(+0.5ポイント)
- ✓ 被害額 25.5億円(+1.0億円、+4.2%) 架空料金請求詐欺全体の36.8%(-2.7ポイント)
- 既遂1件当たりの被害額 402.7万円(-5.6万円、-1.4%)
- ✓ 被害者の**61.8%(-1.4ポイント)が65歳未満**、年代別では**60代が20.9%(-4.1ポイント)**と最多、次いで70代が19.6%(+0.1ポイント)、50代が18.1%(+1.6ポイント)
- ✓ 当初接触ツール **携帯電話が59.4%※**と最多、次いで**SMSが26.4%※**
- ✓ 主な被害金等交付形態別の認知件数 **ATMが75.8%※**と最多
- ✓ 年代別既遂1件当たりの被害額 **90代が2557.1万円(+282.1万円、+12.4%)**と最多、次いで60代が582.7万円(-200.8万円、-25.6%)、50代が552.2万円(+258.6万円、+88.1%)

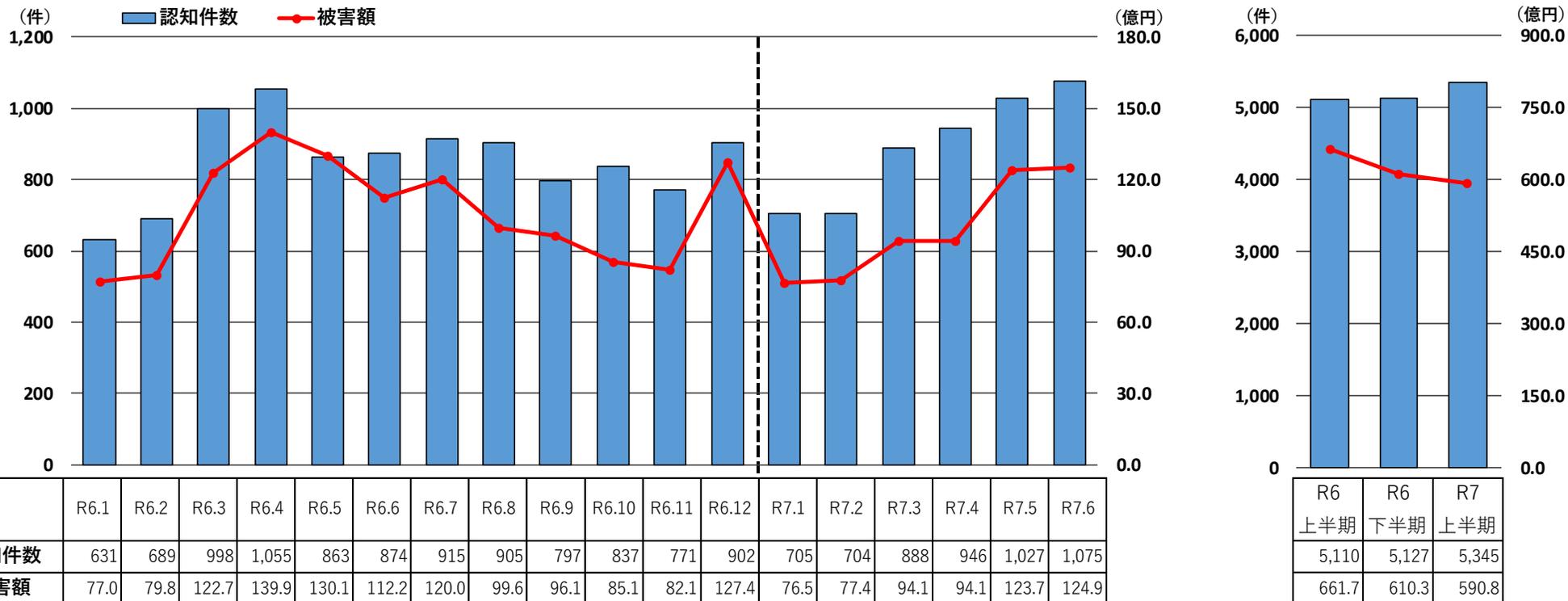
サポート名目

- ✓ 認知件数 679件(-377件、-35.7%) 架空料金請求詐欺全体の23.7%(-17.4ポイント)
- ✓ 被害額 8.5億円(+2.2億円、+34.8%) 架空料金請求詐欺全体の12.3%(+2.1ポイント)
- 既遂1件当たりの被害額 143.4万円(+81.5万円、+131.8%)
- ✓ 被害者の**80.5%(+4.3ポイント)が60代以上、そのうち男性が78.8%(-0.4ポイント)**。年代別では**60代が36.3%(+3.9ポイント)**と最多、次いで70代が31.9%(-1.9ポイント)、80代が11.7%(+2.1ポイント)
- ✓ 主な被害金等交付形態別の認知件数 **電子マネー型が68.2%(-25.2ポイント)**と最多、次いでインターネットバンキングが28.7%※
- ✓ 年代別既遂1件当たりの被害額 **80代が300.4万円※**と最多、次いで60代が135.0万円※、40代が132.3万円※
- ✓ 主な被害金等交付形態別既遂1件当たりの被害額 **インターネットバンキングが565.4万円※と、電子マネー型の46.9万円(-1.5万円、-3.2%)の12.0倍**

還付金詐欺の特徴

- 認知件数 1,803件(-309件、-14.6%)
- 被害額 34.2億円(+2.5億円、+7.8%)
 - ✓ 被害者の**93.9%(-1.6ポイント)が60代以上、そのうち59.7%(-6.2ポイント)が女性**
 - ✓ 当初接触ツール ほぼ全てが**固定電話への架電**
 - ✓ 主な被害金等交付形態別の認知件数 **90.5%※がATMからの振込**

SNS型投資・ロマンス詐欺の被害状況(令和7年上半期)



◆認知件数 **5,345件** (+235件、+4.6%)

SNS型投資詐欺 2,884件(-702件、-19.6%)

SNS型ロマンス詐欺 2,461件(+937件、+61.5%)

◆被害額 **590.8億円** (-70.9億円、-10.7%)

SNS型投資詐欺 351.2億円(-153.3億円、-30.4%)

SNS型ロマンス詐欺 239.6億円(+82.4億円、+52.4%)

◆SNS型投資詐欺の減少の要因

- 当初接触手段でバナー等広告が866件(-1,016件、-54.0%)と大幅減
- 振込型が266.4億円(-179.2億円、-40.2%)と大幅減

◆SNS型ロマンス詐欺の増加の要因

- 当初接触ツールはマッチングアプリ796件(+259件、+48.2%)、Instagram575件(+233件、+68.1%)、Facebook473件(+135件、+39.9%)と全体的に増加
- 暗号資産送信型が94.0億円(+72.2億円、+331.1%)と大幅増

SNS型投資・ロマンス詐欺の被害の流れ

- 当初接触ツール SNS型投資詐欺では多様化
- 被害時の連絡ツール SNS型投資・ロマンス詐欺共に約9割がLINE
- 主な被害金等交付形態 SNS型投資・ロマンス詐欺共に暗号資産送信型が増加

SNS型投資詐欺

当初接触(手段×ツール)

ダイレクトメッセージ 48.1%(+24.6ポイント)

- ・Instagram 24.9%(-3.2ポイント)
- ・Facebook 17.7%(-3.3ポイント)
- ・LINE 16.0%(-2.7ポイント)

バナー等広告 30.0%(-22.5ポイント)

- ・Instagram 20.8%(-10.1ポイント)
- ・投資のサイト 18.7%(+4.5ポイント)
- ・YouTube 16.6%(+15.1ポイント)

被害時の 連絡ツール

LINE
89.5%
(-3.1ポイント)

金銭等の要求名目

株投資
37.2%(+18.7ポイント)

暗号資産投資
35.7%(+16.1ポイント)

主な被害金等交付形態

振込型
72.8%(-16.5ポイント)

暗号資産送信型
24.7%(+15.9ポイント)

SNS型ロマンス詐欺

当初接触(手段×ツール)

ダイレクトメッセージ 91.5%(+11.9ポイント)

- ・マッチングアプリ 32.5%(+2.1ポイント)
- ・Instagram 24.7%(-1.2ポイント)
- ・Facebook 19.9%(-4.5ポイント)
- ・その他SNS 12.5%(-0.8ポイント)
- ・TikTok 8.6%(+4.9ポイント)

被害時の 連絡ツール

LINE
93.1%
(-0.5ポイント)

金銭等の要求名目

暗号資産投資
37.4%(+4.8ポイント)

ネットショップ経営
11.0%(前年統計なし)

主な被害金等交付形態

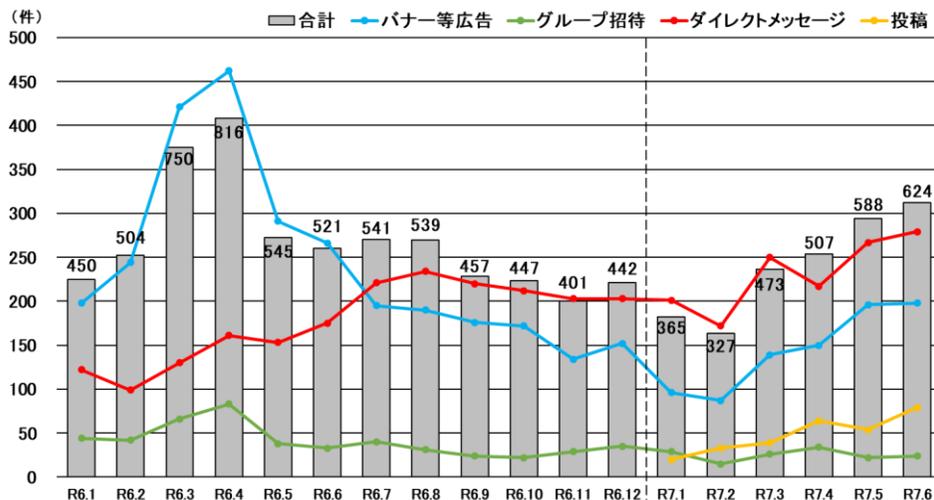
振込型
59.3%(-18.7ポイント)

暗号資産送信型
33.6%(+17.8ポイント)

SNS型投資・ロマンス詐欺の「当初接触手段」の変化について

SNS型投資詐欺

【当初接触手段の推移】



- 「ダイレクトメッセージ」が最多、「バナー等広告」が増加に転じる
 - ・ 令和6年5月以降「バナー等広告」が減少に転じ、下半期には「ダイレクトメッセージ」が最多となり、令和7年上半期も同様の状況が継続
 - ・ 「バナー等広告」は、令和7年3月以降増加傾向

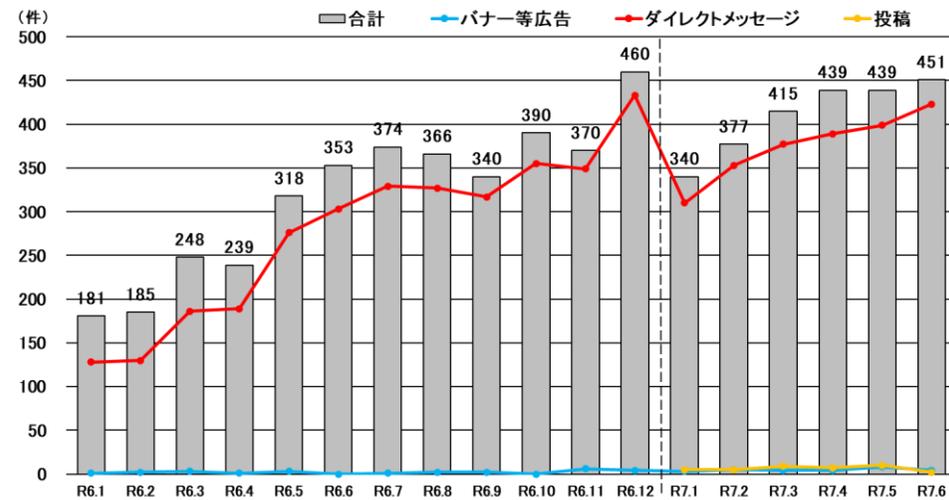
○ 「バナー等広告」においてかたられた著名人の変化

- ・ 令和6年上半期に多くかたられた著名人の多くは、令和7年上半期では減少
- ・ 新たにかたられるようになった者の増加もみられる

著名人	R6上半期	R7上半期
A	214	9
B	183	15
C	73	2
D	68	0
E	55	4
F	51	4
G	26	14
H	35	1
I	22	0
J	18	1
K	10	1
L	11	54
合計	766	105

SNS型ロマンス詐欺

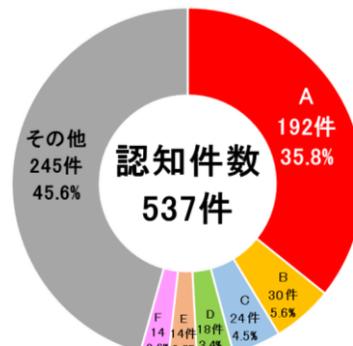
【当初接触手段の推移】



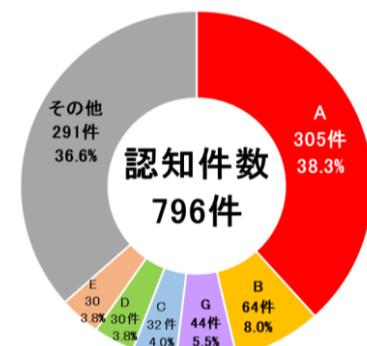
- 「ダイレクトメッセージ」が最多の状況が継続
 - ・ 当初接触手段では、令和7年上半期も「ダイレクトメッセージ」が最多の状況が継続
 - ・ 当初接触ソールでは、令和7年上半期も「マッチングアプリ」が最多の状況が継続。サービス別では、一貫してAが最多で、「マッチングアプリ」全体の4割前後を占める状況が継続

【マッチングアプリの内訳】

令和6年上半期



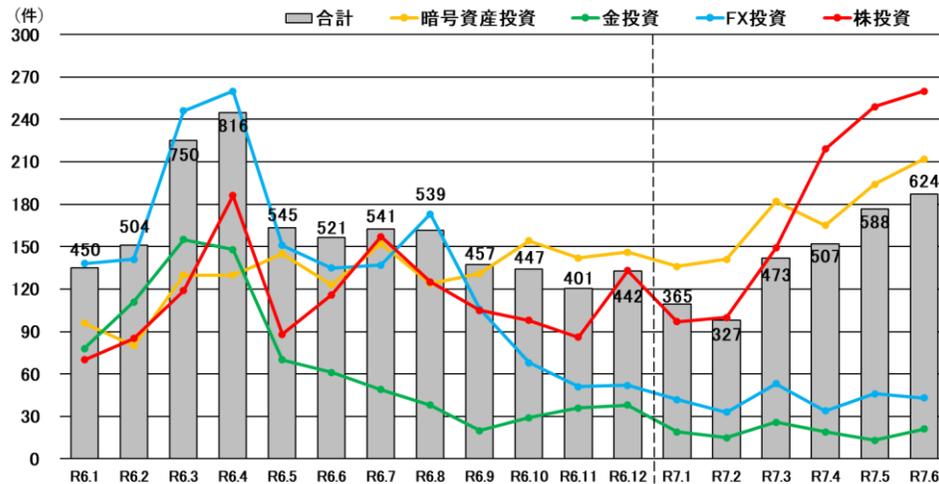
令和7年上半期



SNS型投資・ロマンス詐欺の「金銭等要求名目」の変化について

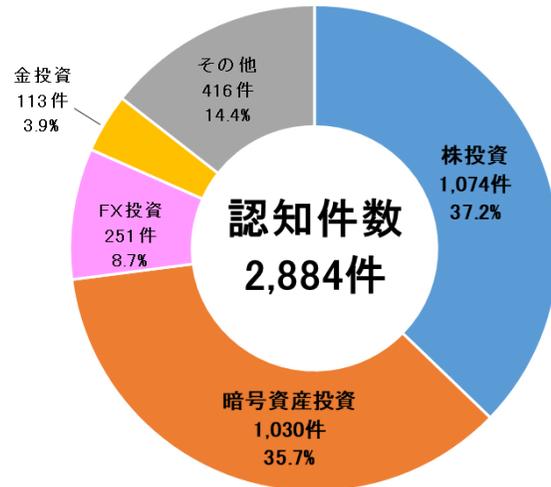
SNS型投資詐欺

【金銭等の要求名目】



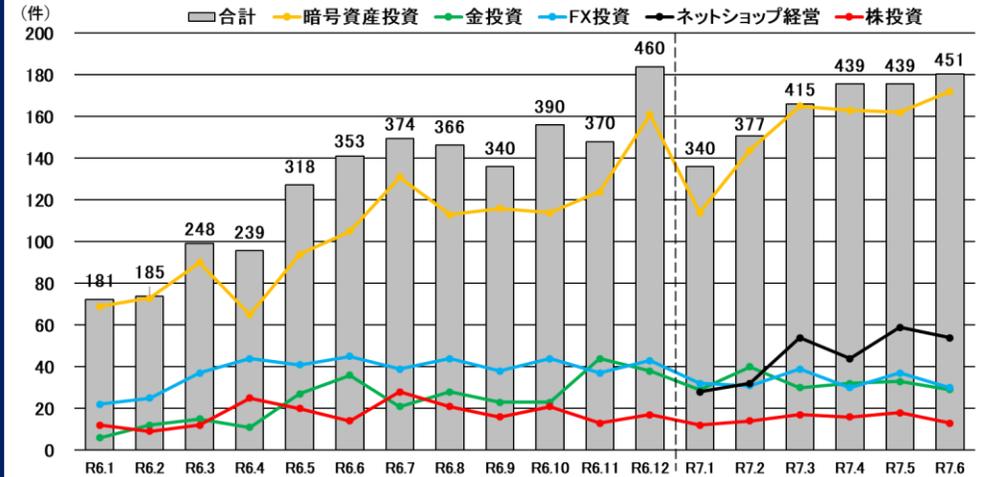
○ 金銭等の要求名目は、「株投資」が最多

- 令和6年上半期は、「FX投資」、「暗号資産投資」、「株投資」、「金投資」の順に多かった
- 令和7年上半期は、「株投資」、「暗号資産投資」「FX投資」の順で多くなっている
- 令和7年4月以降は、「株投資」が「暗号資産投資」を上回っている



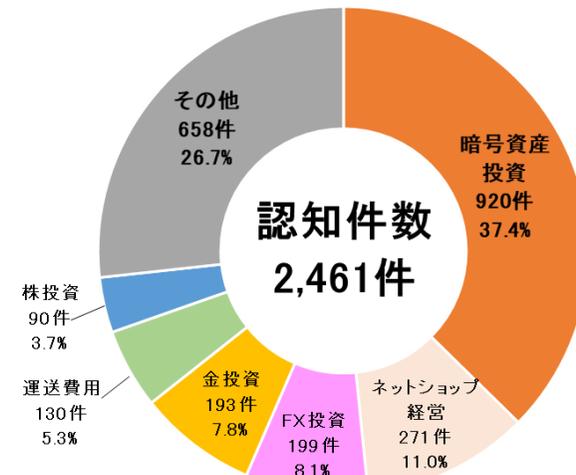
SNS型ロマンス詐欺

【金銭等の要求名目】



○ 金銭等の要求名目は、「暗号資産投資」が最多

- ロマンス詐欺の金銭等の要求名目は、令和7年上半期も「暗号資産投資」が最多の状況が継続
- 令和7年から統計を取り始めた「ネットショップ経営」が増加傾向

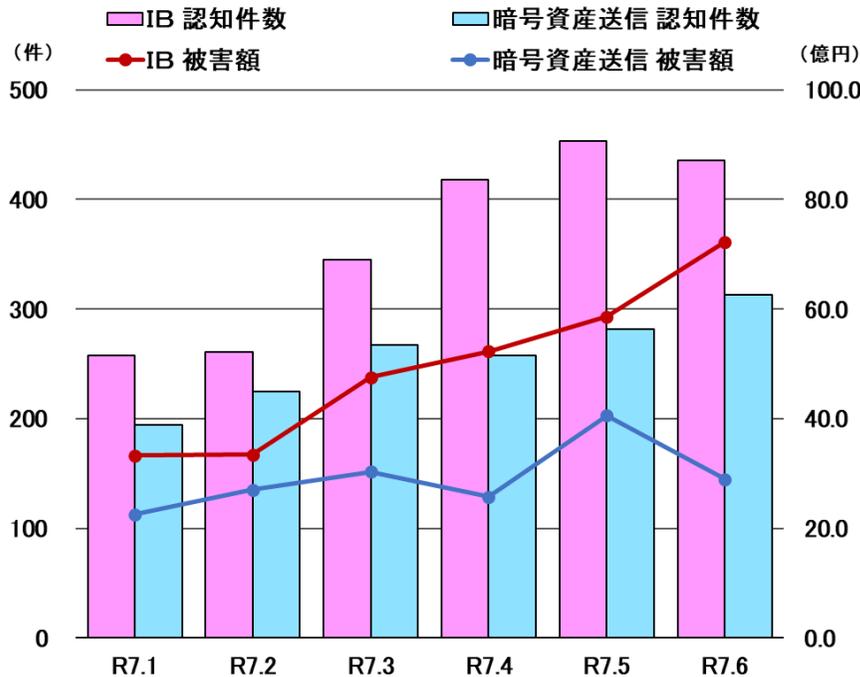


SNS型投資・ロマンス詐欺被害における主な被害金等交付形態の特徴

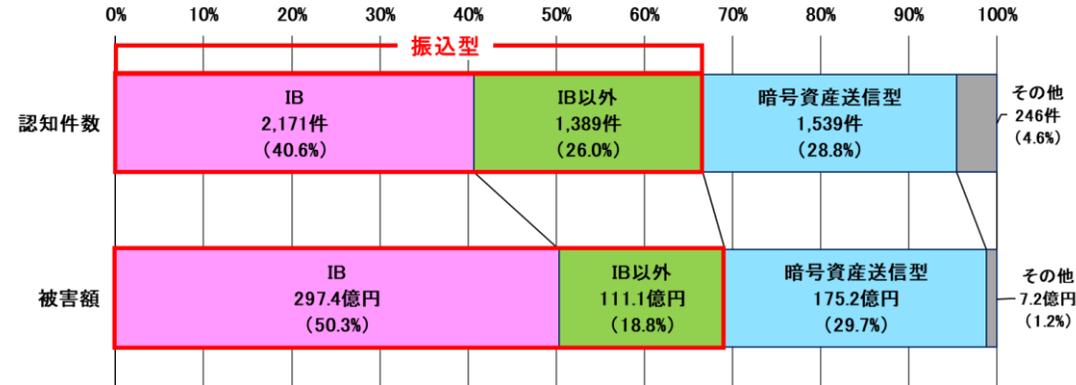
概要

- 振込型 3,560件(-833件、-19.0%)、408.5億円(-170.1億円、-29.4%)
 うち IB利用 2,171件(-309件、-12.5%)、297.4億円(-98.4億円、-24.9%) ※本年上半期は増加傾向
- 暗号資産送信型 1,539件(+983件、+176.8%)、175.2億円(+110.7億円、+171.6%) ※本年上半期は緩やかに増加傾向
- IB利用の既遂1件当たりの被害額 1,369.9万円(-226.0万円、-14.2%)
 振込型のIB利用以外(799.6万円)の1.7倍、暗号資産送信型(1,138.3万円)の1.2倍と、被害額を押し上げる一因に
- 「暗号資産投資」名目の主な被害金等交付形態 暗号資産送信型が67.9%(+29.0ポイント)。
暗号資産について知識のない被害者であっても、アプリのダウンロードやアカウント作成、暗号資産の送信方法等を犯人側が**詳細に指示**する手口が目立つ

主な被害金等交付形態別の推移



主な被害金等交付形態別の割合



事例(SNS型ロマンス詐欺)

被害者は、マッチングアプリで知り合った人物とLINEで連絡を取るようになったところ、相手から、「一緒にいたいので少額でもいいから投資をしてほしい。損はさせない。」などと将来一緒になることを匂わされつつ、暗号資産への投資を進められ、35回にわたり、合計1億円相当の暗号資産を指定されたアドレスに送信し、だまし取られた。

特殊詐欺連合捜査班の運用状況

特殊詐欺連合捜査班(TAIT)の運用状況 ※括弧内は前年下半期との比較

- TAITへの捜査共助依頼 2,834件(+289件、+11.4%)
 - ・特殊詐欺 2,126件(+328件、+18.2%)
 - ・SNS型投資・ロマンス詐欺 708件(-39件、-5.2%)
- TAITへの捜査共助依頼の主な内容
 - ・特殊詐欺
 - 防犯カメラ捜査 964件(+132件、+15.9%)
 - 差押許可状の執行 613件(+164件、+36.5%)
 - 被疑者等の所在捜査 110件(+1件、+0.9%)
 - ・SNS型投資・ロマンス詐欺
 - 差押許可状の執行 613件(-38件、-5.8%)
 - 被疑者等の所在捜査 28件(+5件、+21.7%)
 - 防犯カメラ捜査 21件(+6件、+40.0%)
- TAITを活用し、被疑者の検挙に至った事件数・検挙人員 238事件(+16事件、+7.2%)、232人(-12人、-4.9%)
- 検挙に至った事件における被疑者の主な役割
 - 受け子 86人(+12人、+16.2%) 出し子 62人(-11人、-15.1%) 現金回収・運搬役 23人(+4人、+21.1%)
 - リクルーター 21人(+2人、+10.5%) 打ち子・架け子 12人(-14人、-53.8%) 主犯 7人(-3人、-30.0%)
 - その他 21人(-2人、-8.7%)

好事例

午後0時頃、特殊詐欺事件(キャッシュカード詐欺盗)を認知した岩手県警察は、詐取されたキャッシュカードにより現金が引き出された場所について、地元金融機関との協定に基づき速やかな回答を得た。

防犯カメラ捜査等の結果、被疑者の人相・着衣のほか、東京行きの新幹線に乗車した状況を確認した。

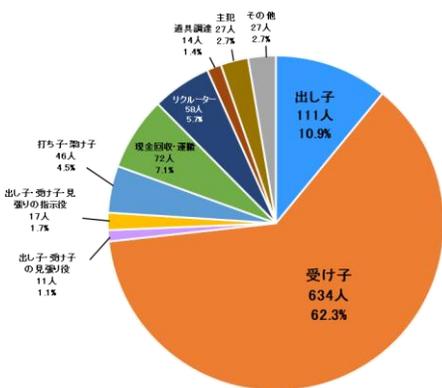
岩手県警察から依頼を受けた警視庁TAITが、同日午後3時30分頃、東京駅で被疑者を確保して被害品等を押収した。

令和7年上半期の検挙状況及び主な検挙事件

特殊詐欺

- 全体の検挙人員は1,017人(+135人、+15.3%)
 - ✓ 暴力団構成員等の検挙人員 217人(+45人、+26.2%)
全体に占める割合 21.3%(+1.8ポイント)
 - ✓ 少年の検挙人員 202人(+24人、+13.5%)
全体に占める割合 19.9%(-0.3ポイント)
 - ✓ 外国人の検挙人員 88人(+44人、+100.0%)
全体に占める割合 8.7%(+3.7ポイント)

【被疑者全体の役割別内訳及び推移】



被疑者の役割	R6 上半期	R7 上半期	差異	
			増減	増減率
出し子	92	111	+19	+20.7
受け子	544	634	+90	+16.5
出し子・受け子の見張り役	12	11	-1	-8.3
出し子・受け子・見張りの指示役	11	17	+6	+54.5
打ち子・架け子	53	46	-7	-13.2
現金回収・運搬	51	72	+21	+41.2
リクレーター	67	58	-9	-13.4
道具調達	8	14	+6	+75.0
主犯	18	27	+9	+50.0
その他	26	27	+1	+3.8
合計	882	1,017	+135	+15.3

SNS型投資・ロマンス詐欺

- 全体の検挙人員は103人(+66人、+178.4%)
 - SNS型投資詐欺の検挙人員 36人(+20人、+125.0%)
 - SNS型ロマンス詐欺の検挙人員 67人(+46人、+219.0%)
 - ✓ 暴力団構成員等の検挙人員 2人(+2人)
役割別 受け子1人、主犯1人
 - ✓ 少年の検挙人員 3人(+3人)
役割別 主犯3人
 - ✓ 外国人の検挙人員 29人(+21人、+262.5%)
役割別 出し子11人(+8人、+266.7%)
受け子4人(+1人、+33.3%)

主な検挙事件

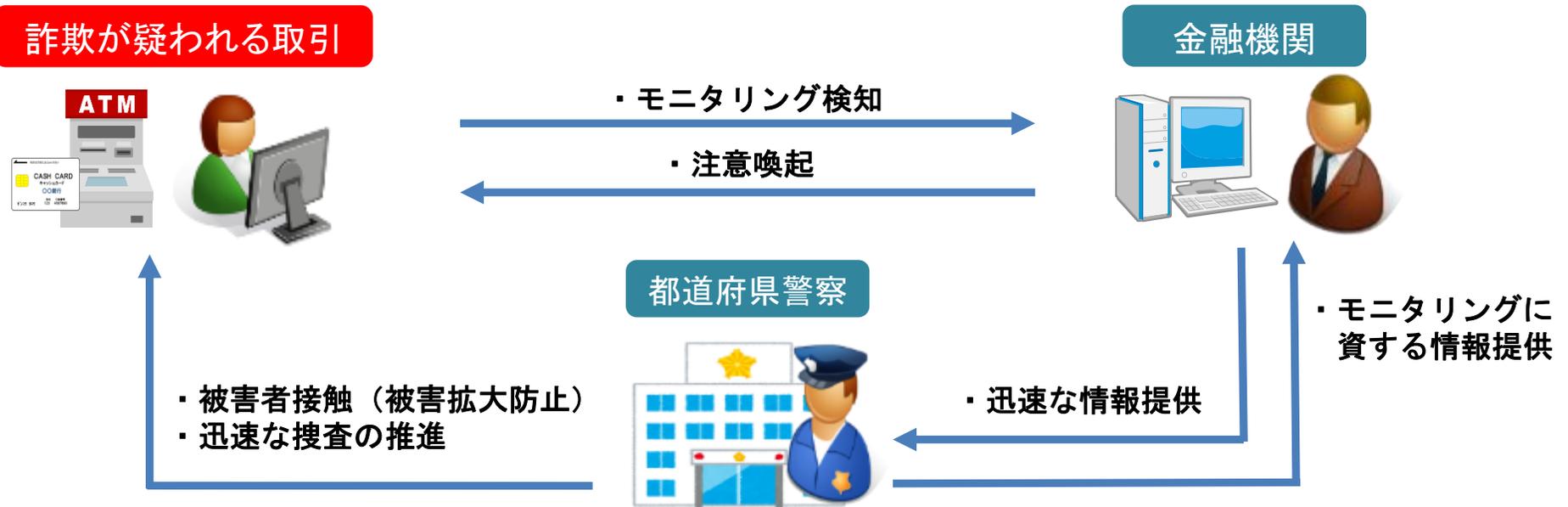
- 民泊施設を拠点とした親族などをかたる特殊詐欺事件(警視庁ほか)
令和7年5月、千葉県内に所在する民泊施設を利用した犯行グループの拠点を急襲し、被疑者3人を特殊詐欺(オレオレ詐欺)事件で逮捕。同犯行グループは、国際電話番号を使用できるアプリケーションを犯行に利用していたことなどを確認
- ベトナム人グループによる警察官等をかたる特殊詐欺等事件(大分)
令和7年6月までに、ベトナム人グループによる特殊詐欺(オレオレ詐欺)事件等で、受け子や回収役等のほか、被害金2,570万円を受領した被疑者を含む計8人を順次逮捕

金融機関との情報連携

金融機関との情報連携体制の構築

- **金融機関のモニタリングにより詐欺の被害のおそれが高いと判断される取引を検知した場合に、関係する都道府県警察へ迅速に情報提供**する連携体制の構築
- 令和6年8月、金融庁と連携して金融機関団体に対し、本連携の推進について要請し、各金融機関と関係する都道府県警察の間において、順次推進中
- 一部の県警察では、協定を結んだ金融機関に対して不正利用口座に係る情報を迅速に共有し、当該不正利用口座へ振り込んでいる者がいないかを確認するなどにより、捜査や被害拡大防止のために緊密に連携を図る取組を実施中

連携イメージ



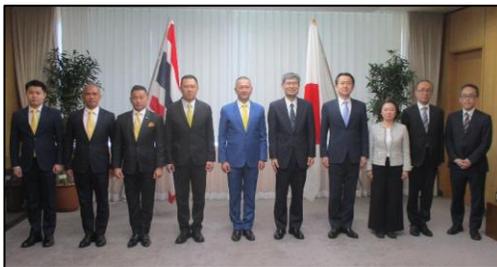
連携状況

- 各都道府県においては、**44警察本部と515金融機関**が連携中(令和7年6月末現在)
- 警察庁においては、全国に顧客を有する都市銀行等と連携に向けた協議を進め、令和7年1月のゆうちょ銀行、同年2月のPayPay銀行に続き、同年6月には、新たに都市銀行等8行と協定を締結し、連携を強化

外国捜査機関との連携及び海外拠点に関する被疑者の摘発

東南アジア諸国を中心とした外国捜査機関との連携強化

- 令和7年4月、タイ国家警察高官が警察庁を訪問し、警察庁長官、組織犯罪対策部長らと協議等を行い連携強化を確認



タイ国家警察幹部と警察庁幹部

- 令和7年4月、6月、警察庁組織犯罪対策部長らがタイ及びカンボジアを訪問し、国家警察幹部と協議等を行い連携強化を確認



カンボジア国家警察幹部と警察庁幹部

官民連携による分析を端緒とした外国捜査機関との共同捜査による海外拠点の摘発

- インド国内から犯行を実行していたテクニカルサポート詐欺グループの拠点を摘発

日本サイバー犯罪対策センター(JC3)及びMicrosoft社の協力を得てインド国内に拠点を置く詐欺グループの情報を入手し、インド当局に共同捜査の申し入れを行ったところ、令和7年5月、日本警察が提供した情報を基に、インド当局が拠点を摘発しインド国籍の被疑者6人を逮捕

令和7年中における海外拠点に関する特殊詐欺事件被疑者の検挙状況

番号	検挙年月	国名	罪名	検挙人数
1	R7.2	タイ	詐欺・詐欺未遂	5人
2	R7.4	タイ	詐欺	1人
3	R7.4	カンボジア	詐欺・窃盗	1人
4	R7.5	フィリピン	窃盗	1人
5	R7.6	マレーシア	詐欺	1人
6	R7.6	マレーシア	詐欺	1人
合計				10人

※詐欺は電子計算機使用詐欺を含む。

摘発事例の概要

- 警察官等かたりのオレオレ詐欺等(番号1、2)
令和6年12月、タイ当局が拠点2箇所を摘発するなどし、日本人計6人を確保。現地から日本国内に移送し令和7年2月以降、順次逮捕
- 保健所職員かたりの還付金詐欺(番号3)
令和7年3月、カンボジア拠点における還付金詐欺の首魁被疑者について、日本警察からの情報提供により、タイ当局が確保。現地から日本国内に移送し令和7年4月逮捕

最近の特殊詐欺の手口の特徴を踏まえた対策(国民への呼び掛け①)

注意点

警察は以下の事項をすることはありません

- 「+」から始まる国際電話番号から電話をすること
- SNSで連絡したり、警察手帳や逮捕状の画像を送ること
- 逮捕を免れることを理由に金銭の振込や出金を指示したり、金地金を購入したりするよう求めること
- SNS等のビデオ通話で裸になることを要求したり、入浴状況の映像送信を要求したりといったわいせつな行為を要求すること
- スマートフォンの契約を求めたり、連絡を取るためにスマートフォンを送ること

だまされないための対策

「捜査対象になっている」と言われたら

- 警察官を名乗る者から電話で捜査対象となっていると言われた場合は詐欺を疑い、電話を切って警察相談専用電話([#9110](tel:#9110))に御相談ください。
- それ以外の場合は、電話をかけてきた警察官の所属や名前を確認の上、一旦電話を切り、御自身で警察署等の電話番号を調べるなどして御相談ください。

犯人側からの接触手段を遮断する環境作りが重要

- 特殊詐欺等の手口は巧妙化しており、犯人側と接触してしまえば、誰もがだまされるおそれがあります。機械的・自動的な仕組みによって、犯人側と接触せずに済む環境を実現することが重要です。
- 携帯電話は、国際電話の着信規制が可能なアプリの利用をお願いします。
- 固定電話は、国際電話の発着信を無償で休止できる国際電話不取扱受付センターに申込みをお願いします。国際電話不取扱受付センターへ直接、ウェブ(国際電話利用契約の利用休止申請 <https://www.kokusai-teishi.com>)から申込むこともできます。また、書類で申請する場合は、申請書類を最寄りの警察署で受領できます。

最近のSNS型投資・ロマンス詐欺の手口の特徴を踏まえた対策(国民への呼び掛け②)

注意点

共通

会ったことがない人×お金の話＝詐欺

SNSなどのダイレクトメッセージで知り合った一度も会ったことがない人から、「必ずもうかる」「元本保証」などと投資などのもうけ話をされた場合は、詐欺の可能性があります。

被害時の接触ツールはLINE

SNSやマッチングアプリ等で知り合った後、短期間でLINEに誘導されます。

SNS型投資詐欺

投資のバナー等広告に注意

投資のバナー等広告から、サクラがいるLINEの投資グループに誘導されます。

投資用アプリ等への誘導に注意

犯人は、投資用アプリ等で利益が上がっているように見せかけ、当初は利益の払戻しに応じるなどして信用させます。

SNS型ロマンス詐欺

会ったことがない人との恋愛・結婚話は冷静に

犯人は恋愛感情や親近感を巧みに抱かせます。一度も会ったことがない人から結婚の準備資金などでお金の話が出た場合は詐欺の可能性があります。

「暗号資産投資」「ネットショップ経営」の話に注意

「暗号資産投資」「ネットショップ経営」名目でお金をだましとる手口が半数を占めます。

だまされないための対策

- SNSのダイレクトメッセージは、受け取るメッセージの相手や内容等を制限する設定があるため、同機能を活用してください。
- バナー等広告の内容に「必ずもうかる」「元本保証」などの表現がある場合は、詐欺の可能性があるため、どんなにうまい話でも、当該バナー等広告の利用は控えてください。
- SNSやマッチングアプリ等を通じて親密に連絡を取り合っていたとしても、一度も会ったことがない人から暗号資産投資や株投資を勧められた場合は詐欺を疑い、警察相談専用電話(#9110)に御相談ください。
- SNSやマッチングアプリ上で知り合った後、一度も会わないまま短期間でLINEに誘導された場合は詐欺を疑ってください。
- 金融商品取引業者や暗号資産交換業者を利用する際は、金融庁・財務局に登録された事業者であるかを金融庁・財務局のホームページで確認してください。
- このほか、SNSやマッチングアプリを提供する事業者が発信している防犯情報を確認することも有効です。

1 「国民を詐欺から守るための総合対策2.0」を踏まえた取組の推進

2 被害防止対策の推進

- 国際電話の利用休止申請の周知・支援等「犯人からの電話を直接受けないための対策」の推進
- 変化する欺罔の手口の国民への迅速かつ実効的な広報・注意喚起

3 犯行ツール対策の推進

- 金融機関との情報連携体制の構築
- 犯行に利用されたSNSアカウントの利用停止措置の推進

4 取締り及び実態解明の推進

- 匿名・流動型犯罪グループの存在を見据えた取締りと実態解明の推進
- 外国捜査機関との連携及び海外拠点に関する被疑者の摘発